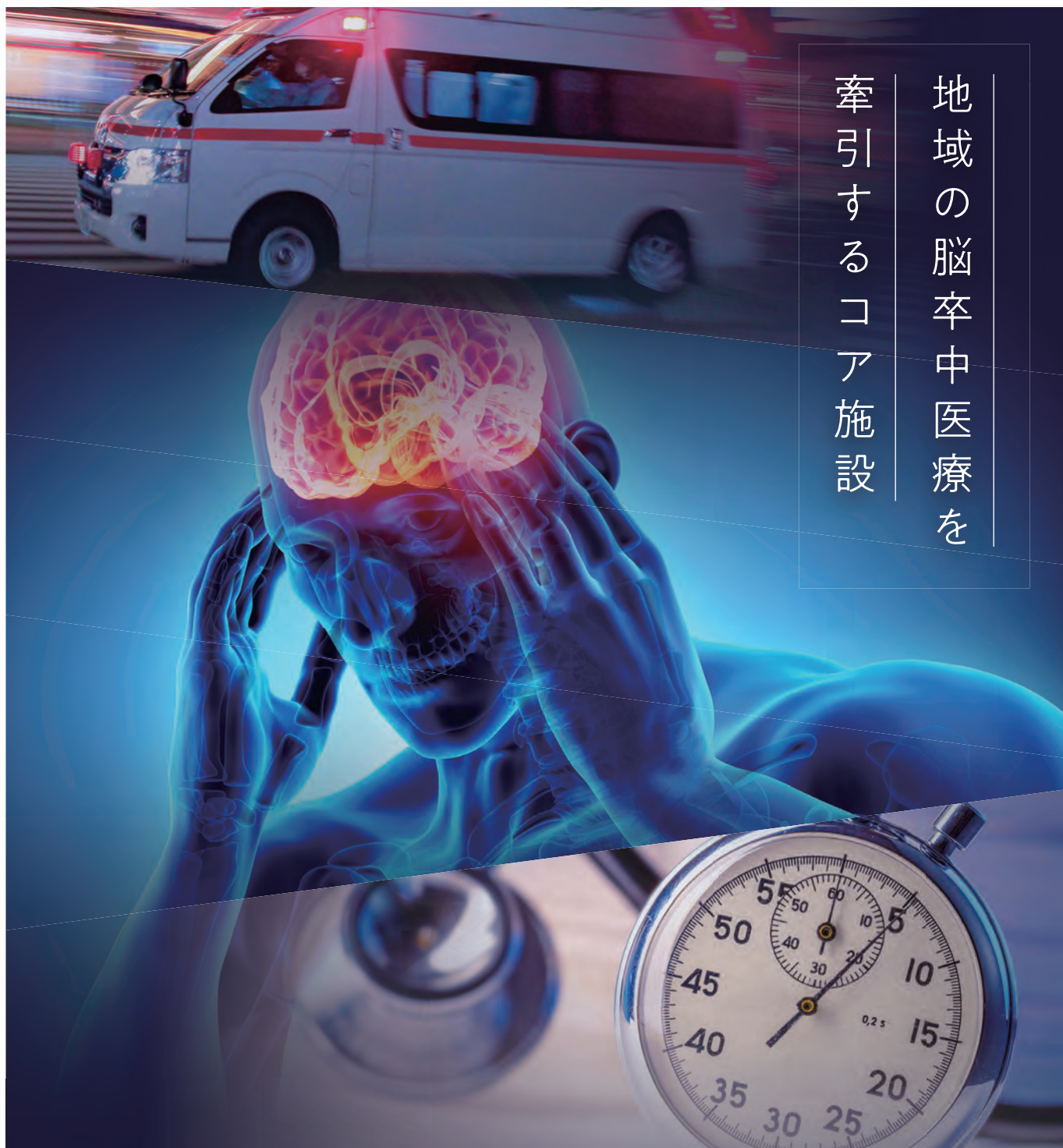


COMMUNITY MEDICINE TAKEDA

vol. 5
2023

康生会 武田病院 脳卒中センター 脳神経外科

地域の脳卒中医療を
牽引するコア施設



一秒でも早く

一人でも多く

救いたい

24時間365日対応のPSCコア施設として急性憎悪対応・再発予防に努め

連携先医療機関と一緒に一人おひとりの患者さんを支え続けます

24時間365日体制での血栓回収 急性期後のフォローにも注力

滝 当施設は2019年10月に一次脳卒中センター（PSC：Primary Stroke Center）の認定を受け、さらに2020年10月にはPSCコア施設の認定を取得しました。PSCは地域の医療機関や救急の要請に対し、24時間365日体制で脳卒中患者を受け入れ、rt-PA静注療法を含む治療を急性期脳卒中診療担当医師が可及的速やかに行う施設です。

こうした機能に加えコア施設の大きな特徴となるのは、24時間365日体制で機械的血栓回収にも対応できることです。rt-PA静注を行いながら搬送される患者さんを受け入れ、当院で血栓回収を行うといった地域医療連携（ドリップ・シップ・リトリーブ）にも対応しています。PSCコア施設は京都府全体でもわずか6カ所（※1）しかなく、加えて当施設は

24時間365日脳神経外科の手術ができるなど、より上位の施設認定（※2）にも対応できる体制にあります。

定政 PSCコア施設は「脳卒中相談窓口」を置くことになっているのも重要です。窓口は脳卒中専門医が責任者となり、脳卒中に精通した看護師やMSWが常勤対応するものです。当施設においては2022年10月に脳卒中相談窓口を設置し、特別に訓練された日本脳卒中学会認定の脳卒中療養相談士（27名）を中心に、窓口での相談業務や病棟での情報提供・相談支援を行っています。

急性期を乗り越っても後遺症や再発の危機にさらされることが多い疾患ですので、窓口を通じた支援業務は大変重要と考えています。

滝 こうした脳卒中のセーフティネット構築は、脳卒中・循環器病対策基本法に基づき、急性期・回復期・慢性期・在宅に至る流れを、地域医療計画の一環として取り組んでいるものです。

定政 脳卒中患者さんをフォローする活動については、これらの動きに先立ち、患者会（武田病院 サンナイ会）を既に設立しており、「脳卒中にならない、手遅れにならない、脳卒中に負けない」を合言葉に情報提供に努めています。

診療所を支えるコア施設として 地域医療への貢献を果たす

滝 rt-PA・血栓回収が大きな話題となっていますが、くも膜下出血についても開頭・血管内治療とともに当施設の得意とするところです。

定政 くも膜下出血も血管内治療の優位性が叫ばれています。当施設では、くも膜下出血のコイル塞栓術についても24時間365日対応で行っています。もちろん開頭での脳動脈瘤クリッピング術も同様に行っています。また脳内出血については内視鏡的血腫除去を行っています。

滝 内視鏡については、定政先生が日本神経内視鏡学会技術認定医を取得していますね。ほかにも日本脳神経血管内治療学会専門医、日本脳神経外傷学会認定指導医を取得されています。

定政 血管内治療、内視鏡治療はもとより、頭部外傷についても専門としているので、幅広く地域の疾患に対応できるのが強みと言えます。

滝 専門職がSCUカンファレンスや多職種カンファレンスなどを通じ、密なチーム医療を展開していることも大きな特

徴と言えるでしょう。また、ハード面での取り組みも、地域を支えるコア施設として重要ではないでしょうか。

定政 抗血栓療法でワルファリンカリウム服用患者の血液凝固レベルを素早く測定する「コアグチェック」、画像診断を迅速に行うため腎機能をスクリーニングする「stattセンサー」を導入しています。このほかポータブルエコーの「Vscan Air」を活用するなど、救急現場での対応力を強化しています。

滝 アンギオも導入したところで、次には3テスラのMRIを導入予定であるなど機器更新は順調と言えるでしょう。ソフト・ハードともに進化を続け、専門医療機関としての役割を果たしていく考えです。できるだけ普段は診療所等で診ていただき、我々は急性憎悪対応や定期検査、情報提供に徹することで、地域医療への貢献を図ってまいります。

※1 2022年4月～2023年3月
※2 包括的脳卒中センター

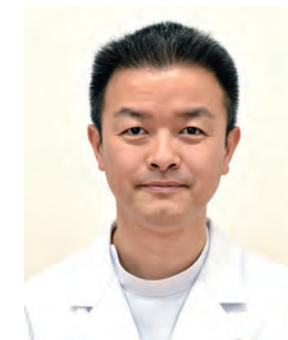


脳卒中センター
センター長

滝 和郎

Waro Taki

【プロフィール】
1974年 京都大学医学部卒業
1981年 京都大学医学博士 / 京都大学脳神経外科助手
1987年 国立循環器病センター脳血管障害研究室室長
1989年 京都大学脳神経外科講師
1997年 京都大学脳神経外科助教授
1998年 三重大学脳神経外科教授
2011年 三重大学理事・副学長
2013年 三重大学名誉教授・客員教授
2013年 武田病院 脳卒中センター センター長
現在に至る



脳卒中センター
部長

定政 信猛

Nobutake Sadamasa

【プロフィール】
1997年 京都大学医学部 卒業
2004年 京都大学大学院 医学研究科 脳神経医学専攻
脳神経科学講座 卒業 医学博士
2005年 米国 UCLA大 留学
2006年 倉敷中央病院 脳神経外科
2014年 小倉記念病院 脳神経外科
2017年 武田病院 脳卒中センター 特任部長
現在に至る



当院の特徴

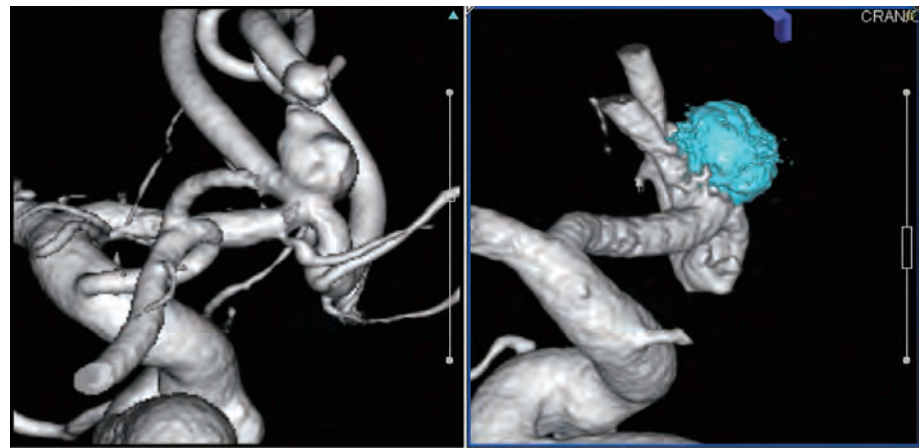
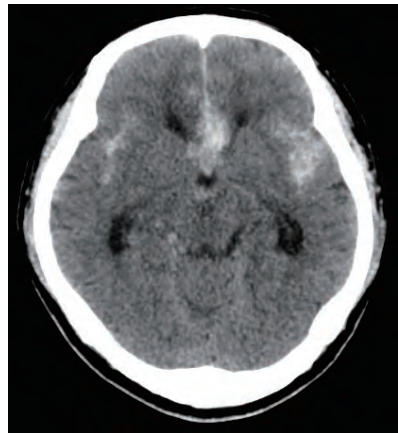
脳神経血管内治療

脳卒中の血管内治療は、予防・治療ともに急速な発展が続いています。脳卒中の原因にはいろいろな病気がありますが、くも膜下出血を起こす脳動脈瘤、脳塞栓、脳血栓などには、この血管内治療が特に有効です。脳動脈瘤は頭蓋内の動脈が風船状に拡大したものです。瘤内に誘導したカテーテル先端からプラチナ製の非常に細くて柔らかいコイルをいくつか充填し瘤を閉塞するとか、フローダイバーターという筒状の金属を瘤の根元に留置し瘤を閉塞することで瘤が破裂しないようにすることができます。また不整脈や心臓の弁の不具合があると血栓ができやすくなります。この血栓が脳動脈の方向に流れて動脈を閉塞し、脳塞栓を引き起こしたりします。この場合、カテーテルを使って血栓を回収（機械的血栓回収術）することができます。血栓回収術では発症から治

療までの時間が短ければ短いほど回復しやすくなりますので、急に手足のまひ、顔のまひ、言葉が出なくなるなどの症状が

でたら、ただちに当院に搬送ください。経過を見て数時間もたつと治療効果がなくなります。

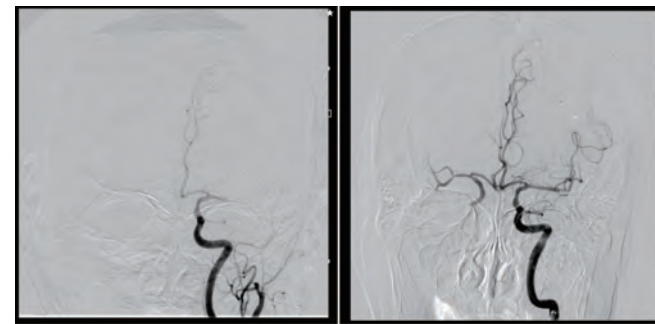
当院では、この血管内治療が世界的に開始されるようになった1980年ごろの黎明期から多くの業績を積んでいる滝脳卒中センター長をはじめとする日本脳神経血管内治療学会専門医4～5名が24時間365日、血管内治療を行っています。



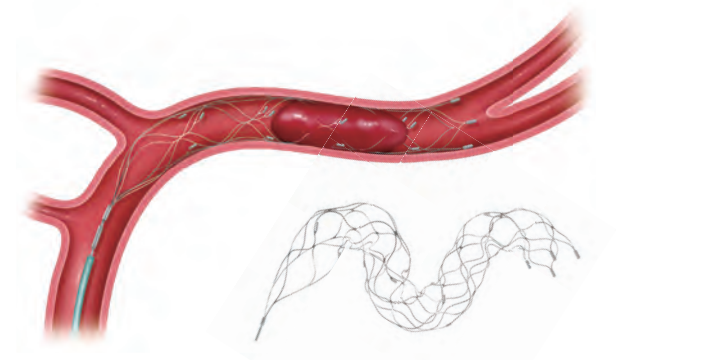
内視鏡手術

近年、神経内視鏡を用いて脳内血腫を除去する手技が確立してきました。神経内視鏡を用いた脳内血腫除去術は、開頭手術に比べて皮膚の傷が圧倒的に小さく、頭蓋骨に小さな穴を開けるだけで可能な手術です。手術時間もかなり短く済みます。患者さんの身体への負担も少なくなり、効果的に脳内血腫を除去することが可能です。脳卒中治療ガイドライン2021においても、脳内出血に対する神経内視鏡の使用が認められています。

当院脳神経外科では、日本神経内視鏡学会神経内視鏡技



術認定医である定政部長を中心として、内視鏡下による脳内血腫除去術を行っています。神経内視鏡は脳内出血以外にも、水頭症や下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、難治性の慢性硬膜下血腫などの根治的治療において活躍しています。また、脳動脈瘤や神経血管減圧術の手術について手術治療を補助する目的で使用することもあります。狭い入口から広角に病変を捉えることができる点、前方斜視70度を用いれば進入方向に垂直な面も観察可能な点が大きなメリットです。



開頭手術

当院では上記のような最新の治療は勿論のこと、脳神経外科手術の専門技術である顕微鏡を用いたマイクロサージャリーについても得意としております。定政部長は日本脳卒中の外科学会技術認定指導医を取得しており、特に破裂脳動脈瘤のクリッピング術、頸動脈内膜剥離術、頭蓋内外血管バイパス術において多くの経験を有しています。未破裂脳動脈瘤の直達手術においては、神経モニタリングを駆使して合併症の予防に努めています。

脳腫瘍においては、当院で治療困難な症例は京都大学脳神経外科と連携して、患者さんにとってよりよい治療を提案させていただきます。

脳神経外傷についても多くの患者さんを受け入れており、日本脳神経外傷学会から研修施設としての認定を受けています。必要な症例にはコッドマン頭蓋内圧モニターを用いて脳圧管理を徹底しています。

京都市において、2つの大学病院以外で、日本脳血管内治療学会指導医、日本脳卒中の外科学会の認定指導医、並びに日本脳神経外傷学会の指導医を揃えているのは当院だけです（2023年8月現在）。



Topics

日本脳卒中学会「PSCコア施設」認定

24時間365日体制で脳卒中患者を受け入れ、rt-PA静注療法が行える施設として一次脳卒中センター（PSC: Primary Stroke Center）があります。当院はPSC施設のなかでも、24時間365日体制で機械的血栓回収療法が行えるなど、地域においてコア（中核）となる「PSCコア施設」として日本脳卒中学会より認定されています。さらにコア施設の認定条件である、脳卒中患者に対して医療、介護、生活相談に関する適切な情報提供を行う「脳卒中相談窓口」を設置し、地域の総合的な脳卒中センターとしての活動も行っています。相談窓口には脳卒中専門医ならびに脳卒中療養相談士の資格を有する脳卒中認定看護師、社会福祉士、リハビリケア専門士、薬剤師、栄養士などを中心に様々な事例に対して対応しております。お気軽にご相談ください。

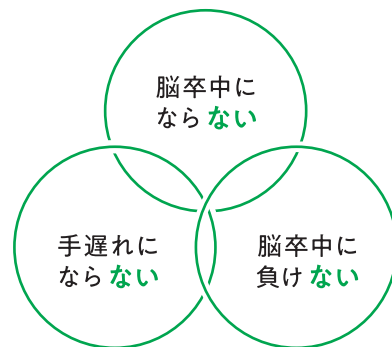


康生会武田病院「サンナイ会」のご案内

脳卒中の患者さんとそのご家族、そして一般の方向けに有益な情報発信を行う取り組みとして当院では康生会武田病院「サンナイ会」を設置しております。これは、京都大学病院前病院長の宮本亨先生がご提案、設置された「**脳卒中にならない、手遅れにならない、脳卒中に負けない**」をスローガンとする取り組みに賛同したものです。

承知のように脳卒中は再発がおこりやすい病気なので、回復しても再度、脳卒中にならない（予防する）ことが大切です。発症しても手遅れにならない初期に治療を開始すれば、後遺症なく治ることもあります。また後遺症が出そうな場合でも脳卒中に負けないでリハビリを行うことで、かなり回復することも多くなっています。

当院では、こうした有益な情報を適切にお伝えすることが重要と考えております。是非、先生方の患者さん、ご家族にも「サンナイ会」によるサポートがあることを知っていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。



「サンナイ会」登録方法

武田病院「サンナイ会」へのご登録は、当院を受診された方とご家族が対象となります。登録をご希望の方は、右記の二次元コード（Googleフォームへ接続）から登録いただくか、患者サポートセンター相談窓口へお声がけください。



Co-medical | 脳卒中センターとの連携について

リハビリテーション科

大西 泰子 | 作業療法士

宇野 礼音 | 言語療法士

藤岡 沙映 | 理学療法士

SCU病棟では急変リスクの高い症例から軽症例まで様々な状態の患者さんに対し、早期よりリハビリテーションを実施しています。多職種や病棟スタッフと連携し、基本動作や日常生活動作の介助量軽減、離床時間の拡大を図る事で、一般病棟転棟後や社会復帰後のQOLの充実につながるよう取り組んでいます。

また、脳卒中療養指導士が中心となり身体機能の回復に合わせて適切な運動や日常生活動作指導、具体的な退院後の生活をイメージしながらのリハビリテーションを提供させていただくと同時に、必要に応じてご家族に日常生活上の注意点や介助方法などの指導を実施させていただきます。



看護部

看護師は、急性期における重症化・合併症予防のためのケアや、効果的なリハビリテーションが実施できるよう、患者さんの全身状態を整えることを目標としています。また、退院後の生活を見据え、多職種と連携しながら“生活再構築のケア”にも取り組んでいます。

脳卒中を発症された患者さんやご家族は、再発の不安を抱かれる場合がほとんどです。当院では脳卒中療養相談士が中心となり、患者さんのお仕事・生活に合わせた生活指導を行うなど「脳卒中を再発させない」ための取り組みを行っています。問題解決や不安の軽減に努め、患者さんやご家族が安心して治療を受け、療養生活を過ごせるよう、心に寄り添う看護を行ってまいります。



薬局

薬剤師は薬剤管理指導を通じて、脳卒中の再発、合併症、重症化予防のための服薬継続の重要性について患者さん、ご家族に情報提供を行います。

入院時には常用薬を聴取し、抗血栓薬の役割や副作用のリスクについてご説明させていただきます。自宅退院予定の患者さんに対しては、入院中より薬剤の自己管理を導入し、服薬コンプライアンスの評価を行います。退院時には回復期パスや薬剤管理サマリーを通じて転院先やかかりつけ薬局に情報提供する「薬業連携」を行うなど、シームレスな薬剤管理を目指しています。



江隈 あすか | 脳卒中看護認定看護師

篁 綾香 | 脳卒中療養相談士（薬剤師）

康生会 武田病院 脳卒中センターの Webサイト できました



康生会 武田病院
脳卒中センター
脳卒中大国日本、高度な救急体制で対応

医療法人 財団 康生会
武田病院

地域の中核施設として
治療・支援を一貫サポート



この二次元コードから
Webサイトにアクセスできます

康生会武田病院 患者サポートセンター(医療機関専用)

【お問い合わせ】

TEL.075-361-1352 (直通)

FAX.075-361-1337 (直通)

【受付時間】

月～金曜日 午前8:30～午後7:00

土曜日 午前8:30～午後5:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

※受付時間外は医事部にて対応いたします。▶075-361-1351 (代表)



患者サポート
センター



康生会
武田病院